

(国語)

## 「読む力の育成」

### —「わかる・たのしい」説明文の授業をめざして—

大阪市立長吉東小学校 研究部

#### 1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、学習に対して関心・意欲をもって授業に取り組んでいる。しかし、文章問題に抵抗をもつ児童が多く、最初からわからない、読めないなど文章に対しての苦手意識やつまずきが見られる児童が多くいることや、文章の内容を正しく理解できないなど読み取る力が低いことから、昨年度より国語科の研究を進めてきた。

昨年度の全国学力・学習状況調査や学力経年調査の結果から、文章を読むことに対して苦手意識をもつ児童が多い、読み取る力が低く、文章の内容を正しく理解できない児童が多いという課題が見えてきた。

このような児童の実態を踏まえ、本年度は全ての学習の基礎となる国語科の説明文においての主体的に学べる課題を設定し、子ども同士が学び合うことを通して課題を解決し、音読を繰り返すことで「読む力」を高めることを中心に研究を進めることとする。研究主題を「読む力の育成」とし、副題を～「わかる・楽しい」説明文の授業をめざして～と設定した。

これから求められる読解力は、読み取りで正しく理解するだけでなく、さらに表現できる力を育成することが重要となってくる。文字を正確に読み、読みの方法・技能を習得させ、「読む」ことによってついた力を「表現する」ことに活かす学習が「確かな読みの力」を育てることであると考える。

#### 2. 研究の趣旨

本研究において、文章の「読む力」とは、「文字を正確に読む力」や何がどのように書いてあるか「内容を正確に読み取る力」を育てるだけでなく、そこで使われている「構成や表現の方法をモデルにして自分の表現に活かすことのできる力」ととらえる。このような読みの力をつけていくことによって、実生活に生きて働く言語力も育成できると考える。特に説明文においては、文と文、段落と段落の関係を考えることで内容理解を深める必要がある。また、接続語を意識しながら読むことで、何について述べようとしているのか、それを伝えるためにどのような例や事実を示しているか、筆者が一番伝えたいことは何かを読み取ることができる。

本年度は2年目の取り組みとして、授業において、児童に「読む力」をつけるために、次のようなことに重点を置いて学習を進める。

- (1) 読みの力の育成につながる導入の工夫
- (2) 読みの力を高める音読を重視した授業展開

これらの重点を通して「読む力」を育てることで、少しでも児童が読むことへの抵抗がなくなり、読むことが楽しいと感じるのではないかと考えた。主体的な「読み」を通して、「深め」「表現」していくことへとつなげていきたい。

#### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 読みの力の育成につながる導入の工夫

- 指導者が予め教材文を読み、分析・解釈をし、指導者のねらう「つけたい力」を明確にすることで、「読みの課題」や「学習のめあて」を設定する。
- 導入を工夫し、児童が興味・関心をもって読み進めることができるようにする。

#### 視点② 読みの力を高める音読を重視した授業展開

- 一斉読み、追い読み、起立読み、円陣読み、グループ読み、列読み、たけのこ読みなど、様々な読み方の形態を取り入れる。
- 語や意味のまとまりを意識する。
- めあてをもって丁寧に読めるようにする。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 導入の時間に、具体物や本文の内容に関連する本などを用意して提示することにより、児童の興味や関心を引き出し、児童が活発に話し合いをすることができた。
- 1時間の学習の中で、「音読をする場面」「考えをもつ場面」「書く場面」「考えを交流する場面」の4つの学習場面を設定し、学習を進めることにより、児童が学習の流れを理解し、意欲的に学習に取り組むことができるようになった。
- 1時間の学習の中で、ペア交流やグループ交流など場面に応じた交流の仕方を工夫したことで、自分の考えを伝えたいという思いを高め、交流が活発に行われるようになってきた。交流の機会を多くつくすることで、自分の考えとは異なる考えに気づくことができ、読みを深めることができた。
- 全学年で毎月「今月の詩」を各学級に掲示し、朝の会や国語の授業の初めなどに詩の音読に取り組んだことで、音読に親しみをもたせ、読むことに対する苦手意識を減らすことができた。

#### (2) 今後の課題

- 授業の導入では、指導者が課題を設定して、学習を進めることが多かったので、児童が自ら学習課題に気づいたり、発見したりする場面の工夫が必要である。
- ペア交流やグループ交流の活動の中で、自分の考えの理由や根拠を明確に伝えることができない児童が多く、話し合いが深まらないことがあったので、交流の仕方や発問を考えていく必要がある。
- 音読の際は、内容を確認するだけでなく、文と文とのつながりや段落を意識して読むようにする。学校全体で、音読を発表する機会をたくさんとれるようにする。
- 読みを深めるために、自分の考えとその根拠を書いて整理する力を身につけさせていく。書いた内容の考えを相手に分かりやすく伝えるという活動も同時に行っていく。